様式3

令和2年1月20日

令和元年度　結果の分析及び今後の改善策

（　中間・(最終)）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	（貫）義務教育9年間を見通した学力を育成する	教師及び生徒の言語能力・ICT活用力の向上	ICTの活用については，すべての教科で積極的に行っているが言葉磨きの取組の一環として行っている「話型」の活用については，あまり進んでいない状況である。授業研究については，まだ半数の実施であるが，言葉磨きの指導を明確にした学習指導案を作成し，それぞれ視点での評価シートを活用しながら授業改善に取り組んでいる。一方で，「自分の考えとその理由を明らかにして相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している。」は70%と最も低い値となっている。自分の考えを持たないまま授業に臨んでいたり，相手に分かりやすく発表するノウハウがないためと分析している。また，生徒が自分の考えを説明する場面の設定が少ないことも原因として考えられる。	生徒の言語能力の向上については，これまでの「話型」の実践に加え，「主張」「事実・データ」「論拠・理由づけ」の3つを明確にして自分の意見を考えてまとめる三角ロジックを活用して書かせたり，発表させたりする授業を行うことで生徒の言語能力を高めていきたい。これについては3学期に各教科で試行し，課題を明らかにして来年度スタートできるように年度末までに研究推進委員会で方向性を示す。また，来年度の研究授業については2学期までに実施する。
		横断的・総合的なカリキュラムデザインおよび評価の工夫による学びの質の向上	教科及び総合的な学習の時間において，「課題発見・解決学習」を改善しながら取組を進めることができた。また，新しい「防災貫きカリキュラム」を全体で作成することができた。アンケートにおいては，情報収集・判断，整理・分析，思考・表現の中で，70%台になっている項目があり，昨年度と比較すると数値は落ちている。各教科や総合的な学習の時間で取り組んでいる日々の振り返りが，達成度を中心に見取るものとなっており，生徒が意識化しにくかったものと考える。	これまで開発した「課題発見・解決学習」の貫きカリキュラムを計画に沿って実践していくとともに，来年度に向けて，課題を焦点化してカリキュラムの改善に取り組む。また，各教科や総合的な学習の時間における日々の振り返りを工夫し，何の力をつけているかを明確化させる取組も強化したい。来年度は，振り返りシートの工夫も視野に入れたい。
★★	礼節と挑戦心を身につけ，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展	評議委員会が，立腰に対する取組を行うことで，生徒自身の意識が高まった結果，目標値である80%を超えることができた。また，文化活動発表会で，各学年で毎年行う活動に，新しい工夫を行ない，地域の方などから「良かった」という評価をいただくことで，自己肯定感が高まってきたと考えられる。	生徒会執行部も，新しく変わりこれまでの取組を踏襲しながらも，新たな取組を考えさせ，自主的な活動をさらに広げていく。
		不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	・9月のアンケート結果と同じ達成度になっており、動画やゲーム等に長時間触れる生徒が固定化してきている。これらの生徒については，計画的な家庭学習の時間の確保が困難になっているものもいる。10月に行った「考えるスマホ教室」では生徒、保護者が一緒に聞く形で行ったため、協議する場がなく，中途半端な内容に終わった。 ・不登校生徒については，学年を中心に家庭としっかり連携できていることで，減少している（0人）。	・引き続き生活リズムのできていない生徒には，アメニティー環境推進委員会や担任を中心に，生徒との面談や家庭との連携をしっかり図っていくとともに，その課題を生徒に考える場面を作っていく。 ・不登校については，日々の生活ノートや面接などでその兆しを把握し，アメニティー環境推進委員会を中心に全教職員で対応していく。
★	（貫）地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域の人材活用及び生徒の地域社会で貢献・協働できる場の充実	第2回広南避難プログラム開発会議を実施し，校舎3階の避難所運営について地域防災リーダーと検討するなど，直接生徒と地域の方で協働する場を設定できた。その成果を3学年が中心となり防災啓発する創作劇（地域貢献）にして地域へ発信した。また，その内容を「広南避難プログラム」として整理し地域へ回覧する予定である。これらの年間を通した地域協働の防災への取組は，「第15回ぼうさい甲子園」特別賞（はばタン賞）を受賞し高く評価された。生徒，地域，教職員の自信となり，地域と共に育つ学校の好事例につながった。 保護者においては，特に文化活動発表会のPTAバザーを中心に協働・貢献した。	今後も，地域の専門性を生かしながら，総合的な学習の時間を中心に，地域の方と協働し貢献できる場を設ける。 具体的には，防災の取組として「7．9広南防災の日」を設け，地域の方と共に地域の災害の歴史を振り返り，自分たちにできることを宣言する。また，広南避難プログラムをもとに避難所運営について地域の方と共に協議したい。 また，地域ボランティア（アマチュア無線，環境整備等）を積極的に募集し，地域と共にある学校を目指したい。
		活動の充実に向けた，子供と直接向き合う時間の確保（業務改善）	教職員のタイムマネジメント力について，入退校記録をもとに意識（80時間/月　0人）をしながら職務を行うことができた。また，文化活動発表会に向けての練習や部活動，落語やハンドベルの指導，ドリルタイムや長期休業中の学習指導など，直接生徒と向き合い指導する場面も多く，生徒の自信となり力も身に付いた。同時に教職員の意欲向上にもつながった。 PTA活動については，11月のPTC活動について簡略化でき，活動の選択と集中ができた。	今後も，教職員が時間を意識したり，優先順位をつけたりしながら職務を行う。 そこで生み出された時間をできる限り生徒と直接向き合い関わる時間に活用したい。 PTA活動については，今後も活動の選択と集中を行いたい。